

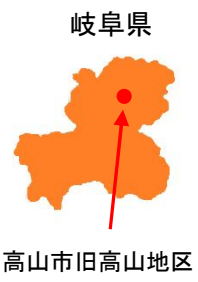
地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

【地区の概要】

- 高冷地及び内陸性の気候であることから、昼夜の寒暖差が大きく、その気候を活かした、夏ほうれんそうや夏秋トマトなどの高冷地野菜の栽培が盛んな地域。

【支援内容・背景】

- 地区では、トマト栽培の拡大のため、県、市、JAが一体となりトマト研修所を運営し、新規就農者の育成を行っている。
- 助成対象者は、雇用就農を経て独立就農した経営者であり、初年度から中規模で経営を開始し、その後も順調に栽培面積を増やしている。今後も面積の拡大を検討しており、作業の効率化のため機械導入を支援した。



助成対象者「H農園」の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- 平成24年 雇用就農
- 令和元年 独立就農
- 初年度栽培面積 30a
- 令和2年 栽培面積拡大 41.6a
- 令和5年 栽培面積拡大 48.8a

《事業活用の背景》

- 小型のトラクターを親類からレンタルして土づくりや圃場管理を行っていたが、栽培面積を拡大する中で、レンタルでは非効率となってきた。
- 今後排水不良農地なども借り入れて圃場を改良しながら面積拡大を行っていききたいことから、大型のトラクターと深耕ロータリーを導入。

【事業実施時の状況】
〈R2年度〉

- 生産量 38.7t
- 経営面積 41.6a
- 単収 9.3t/10a

《事業による整備内容》

- トラクター 1台
- 深耕ロータリー 1台
- 事業費 3,960千円
(国費 797千円)



【現在の経営状況】
〈R5年度〉

- 生産量 78.1t (202%)
- 経営面積 48.8a (117%)
- 単収 16.0t/10a (172%)

事業の
効果

《対象者》 独立就農後、トラクターの導入により作業が効率化でき、栽培面積の拡大が実現。
併せて高温期の着果性に優れ、裂果が少ない品種に切り替えを行うことで、単収が向上。
《地区》 夏秋トマト新規就農者のモデル的な取組みとして、新規就農者募集の事例紹介に活用。
令和2年度以降、飛騨地域での新規認定就農者数が19名増加した。